

授業科目名	経済原論①		
担当者名	作前 祐次		
開講年度学期	2024年度 後期		
単位数	40時間 2単位	年次	大学進学科3年次
授業形式	講義		
授業の概要と方法	<p>マクロ経済学とミクロ経済学の基礎部分を学修します。</p> <p>授業は、銀行員時代に培った『生活に密着したお金の知識』を取り入れながら、市場の理論をわかりやすく、身近なものとして感じることができるよう展開していくことで理解度を深めていきます。</p>		
授業の到達目標	<p>公務員試験における経済分野の問題を解くことができるようになることを前提に、マクロ経済学・ミクロ経済学への関心を深め、日ごろニュースを見ながら自らの考えを構築し、公務員になった暁には遺憾なくその知識と考えを職務に活かせること。</p>		
授業計画	<p>9月：価格のメカニズム</p> <p>10月：代替効果と所得効果 損益分岐点と操業停止点</p> <p>11月：上級剤とギッフェン財 国民経済計算 GDP</p> <p>12月：レポート作成 条数過程 IS-LMモデル</p> <p>1月：国際収支表 試験準備</p>		
成績評価の方法	<p>出席率、平常点にて評価します。</p> <p>評価比率 出席率30% 科目終末試験70%</p>		
授業外で行うべき学修	<p>予習としてテキストにて事前勉強をおこなうこと。</p> <p>テキスト以外にもインターネットで検索、ニュースを見るなど、積極的な姿勢で理解を深めてください。</p> <p>また、授業で行った範囲は問題集を使って定期的に復習をしてください。</p>		
使用テキスト	近畿大学通信教育テキスト『ミクロ経済学』		
参考書（参考資料等） 《0～120字程度》 ※注7	<p>『入門ミクロ経済学（第2版）』 新世社</p> <p>『ミクロ経済学（第2版）』 日本評論社</p>		
その他	<p>難しい言葉やイメージしづらい内容も出てくると思います。わからないことを放置せず、質問や復習をしっかりと行うことが重要です。</p>		